



Messidor Ensemble

メシドール・アンサンブル演奏会

2017年6月11日(日)

ティアラこうとう小ホール

メシドール・アンサンブル演奏会

クロード・アシル・ドビュッシー
弦楽四重奏曲 ト短調 Op. 10
Claude Achille Debussy : Quatuor en sol mineur, Op.10

第 1 楽章: *Animé et très décidé*

第 2 楽章: *Assez vif et bien rythm*

第 3 楽章: *Andantino, doucement expressif*

第 4 楽章: *Très modéré - Très mouvementé - En animant peu à peu - Très mouvementé et avec passion*

————— 休憩 (15 分間) —————

ニコラ・バクリ
『三つのロマンチックな愛の歌』 Op. 126-1b
Nicolas Bacri : Drei Romantische Liebesgesänge, Op.126-1b (世界初演)

第 1 楽章: *Du meine Seele / 君は我が魂*

第 2 楽章: *Suleika / スライカ*

第 3 楽章: *Nun hast du mir / 今あなたは*

オットリーノ・レスピーギ
独唱と弦楽のための『黄昏』
Ottorino Respighi : Il Tramonto

ソプラノ: 藤井 玲南

ヴァイオリン: 宇野 格
檀本 亜希子

ヴィオラ: 林 俊夫

チェロ: 坂本 謙太郎

コントラバス: 島田 奈央

2017 年 6 月 11 日 (日) 14 時 00 分 開演
ティアラこうとう 小ホール

黄昏のメディチ荘

ローマ旧市街東端の小高い丘に建つメディチ荘は、この街で最も美しい黄昏を見られる場所のひとつだろう。西に面した窓の下にはローマの街が広がり、かなたにはカトリックの総本山、バチカンを望む。陽はちょうどサン・ピエトロ大聖堂の向こうに沈む格好になる。この風景は幾多の芸術家を魅了してきた。メディチ荘は200年以上に亘って、フランス政府に才能を認められた若手芸術家たちの住まいとして使われているからだ。

この館は、その名の通りルネサンス期フィレンツェの有力貴族メディチ家が、ローマの別荘として整備したものだ。1737年に同家が途絶えた後、館は何人かの主を迎え、ナポレオン時代にフランスの国家資産となり、ローマ賞受賞者の寄宿舍に供された。

ローマ賞は17世紀、ルイ14世の治世に始まったもので、建築、彫刻、絵画、作曲分野の若い才能を選抜し、公費でローマに二年間派遣する制度である。この間受賞者は、経済的な憂いから開放され、古代ローマ以来の伝統を学び、自己の作品を制作する時間、そして作品発表の機会を与えられる。

派遣期間中、指導者がつく訳ではないが、ローマに受け継がれた伝統そのものが受賞者の師になる。欧州の美術館では、展示作品を模写する画学生の姿をよく見るが、これは先人の優れた作品の複製・再現を通じて伝統を学ぶことが大事にされているからだ。ローマ賞受賞者はそのための環境と時間

を、西欧で最も長い歴史を持つ街で持つことが出来る。自己の世界と生活基盤をまだ確立していない若い芸術家にとって、これには大きな意味がある。この権利を求めて、フランスで芸術を志す若者はローマ賞に挑戦する。メディチ荘は彼らにとって目指すべき憧れの場所なのだ。

ドビュッシー：弦楽四重奏曲

もしローマ賞がなかったら、西洋音楽は今我々が知っているのとは随分違うものになっていただろう。その発展に重要な役割を果たしたクロード・ドビュッシー(1862-1918)が作曲の道を志す上でローマ賞が大きな意味を持っているからだ。

彼は若干十歳でパリ音楽院に入学し、十代をピアニストになる夢に費やした。しかし、並み居る同級生のライバルたちに伍していくことが出来ず、1879年には音楽院のピアノ科を去っている。

20歳前後のドビュッシーは、代わって作曲に手を染め、歌曲から交響曲まで様々な分野に挑戦している。しかし、いずれも習作の域を出ていない。まさに夢破れ、道を模索している状態だった。彼のローマ賞への挑戦はちょうどこの時期に重なる。そして、1884年についてメディチ荘への切符を手にしたことで、ドビュッシーは作曲家として生きていく確信と覚悟を得ることが出来たのである。

ドビュッシーが西洋音楽の未来に

繋がる新しい扉を見つけたのは 1889 年だった。ローマから帰ったドビュッシーはパリ万国博覧会でジャワ音楽（ガムラン）の実演に接した。それは西洋音楽の基礎を成す機能と和声～和音から和音への推移のルール～が通用しない音楽であり、彼にとって異次元の音の世界であった。

当時西洋音楽の最先端はバイロイトにあった。リヒャルト・ワーグナー（1813-83）が自作を演奏するための専用劇場・音楽祭を置いたドイツの街だ。彼が提示した複雑な和声の響きに触れるため、西欧の文化人はこぞって同地に詣でたのである。万博と同じ年、ドビュッシーもバイロイトを訪れたが、彼がそこで出会ったのは否定すべき古い音楽だった。ガムランを知った後の彼にとっては、ワーグナーですら機能と和声という古い因習に囚われた作曲家に映ったのである。

以降、ドビュッシーは機能と和声や長調・短調という概念を超越した音楽、ワーグナーのさらに先にある音楽を模索する。そして数年の試行錯誤の末、その実例として初めて世に問うたのが弦楽四重奏曲（1893）である。ここでは従来の西洋音楽の常識は通用しない。冒頭の和音こそ曲名通りのト短調だが、早くも二拍目からこの調にはあり得ない音が飛び出す。この和音の次にはこれが来るはずという予測は、その後もしばしば肩透かしを食う。

しかし、それは決して無秩序ではなく、「すべてが整然と、明晰に構成され…いささかも耳障りではない」。不協和音も多用されるが、「それは全体の複雑な流れの中では、協和音よりも

かえって調和しているほどだ」（初演時のポール・デュカスの評）。この曲は従来とは全く異質ながら、完成された小宇宙として突如登場し、西洋音楽史における記念碑となったのである。

バクリ：三つのロマンチックな愛の歌

驚くべきことにローマ賞は過去のものではない。フランス政府は今日でもメディチ荘に自国から有望な新進芸術家を送り込んでいるのである。ニコラ・バクリ（1961-）はそのような現代のローマ賞受賞者であり、1983-85 年にかけてメディチ荘に住んだ。21 世紀の今日、クラシック音楽の作曲家として生きて行くのは容易ではないが、彼はそれを実現している数少ない成功者の一人でもある。

バクリが歴史に名を残すのかは現代あるいは後世の聴衆が決めることだが、その可能性は十分だろう。去る四月にもフランスで彼の過去の交響曲・協奏曲・カンタータを集めた大規模な演奏会が開かれたが、この様な「演奏コスト」の高い曲が実演され、演奏会が商業的に成り立つという事実からだけでも、かの地でのバクリへの評価を窺い知ることが出来る。

『三つのロマンチックな愛の歌』はバクリが 2012 年にドイツ語の詩につけた歌曲である。フランス人がドイツ語のテキストを採用するのは意外だろう。本人によると、彼は当時フランス語のイントネーションを忠実に守ると旋律にならないという問題に悩んでいたそうだ。知り過ぎた母語ゆえに扱いに困り、敢えて一旦離れてみたのだという。代わってシューベルト、

シューマン、メンデルゾーンの歌曲に使われた 19 世紀のドイツ詩を再利用し、新たな旋律を与えている。

曲名の「ロマンチック」は原題の *Romantisch* を直訳したもののだが、これを日本語が示す印象だけで捉えると理解を誤る。19 世紀、ロマン派時代の詩人、同じテキストを採用した作曲家たち、彼らの音楽形式など、この時代の様々な要素への敬意がこの一言に集約されている。20 世紀の音楽では旋律が判然としないことが珍しくないが、バクリは「曲の価値は旋律で決まる」と考える。そんな彼にとって、ロマン派の美意識は常に意識すべき存在なのであろう。

三つの楽章をバクリは「愛の夜明け・昼・黄昏」と表現する。すなわち、第一楽章は今まさに燃え上がる愛であり、第二楽章は遠く離れた所に恋人を懐かしむ歌。「私」は伴奏が表現する西風に思いを託す。しかしその恋人も、第三楽章では世を去っており、愛は終焉を迎える。

『愛の歌』には複数のバリエーションが存在する。ピアノ伴奏版、弦楽合奏伴奏版は既に何度も演奏されているが、弦楽五重奏伴奏版はこれが世界初演となる。

日本ではクラシック音楽は既に評価が確立した過去の作品を再演するもののように捉えられがちだ。しかし、ポップスやロック同様、クラシックの世界でも新曲は今この瞬間も生まれ続けている。それが聴衆によって評価・淘汰されて、定番のレパートリーとなるのだ。その意味では本日客席でお聴きの皆さんもクラシック音楽の

未来を決める場面に参加されているのである。

レスピーギ：黄昏

メディチ荘ゆかりの作曲家としてオットリーノ・レスピーギ (1879-1936) の名を忘れることは出来ない。ローマ賞作曲部門はパリ音楽院作曲科の学生を対象したもので、イタリア人のレスピーギがメディチ荘に住む権利を目指すことはなかった。しかし、多くの人、特に音楽愛好者はこの館の名を、彼の代表作『ローマの噴水』を通じてご存知なのではないだろうか。

同曲の終楽章には「黄昏のメディチ荘の噴水」の表題がついており、館の正面に建つ噴水が描かれている。ローマには多くの美しい噴水があるが、その中でメディチ荘のそれは、デザイン的にはさもない噴水である。しかし、黄昏時にメディチ荘の西の窓から見ると、レスピーギがこの噴水をローマを代表する風景のひとつに選んだ意味がよく解る。噴水の向こうに、彼が活躍したローマの街、教鞭をとった聖チェチリア音楽院、さらにはバチカンのサン・ピエトロ大聖堂が一幅の絵画のように見えるからだ。『黄昏』を作曲したとき、レスピーギがこの風景を思い描いていたことは、想像に難くないのである。

『黄昏』は英国のロマン派詩人パーシー・ビッシュ・シェリー (1792-1822) の詩『The Sunset』に基づく。レスピーギはそれを伊訳した『Il Tramonto』を詩として採用している。

曲の冒頭では、黄昏時の風景が丁寧に描かれ、やがて空の下を歩く一組の

男女に焦点が当たる。月が昇り、星が輝き出す頃になって、男は意を決し、「一緒に日の出を見よう」と誘う。当時の倫理観に照らせば、未婚の男女が夜を共に過ごすことは大きな背徳行為だが（あるいは背徳的であるが故に）、二人は「夏の大気の恍惚感にも似た甘美な悦び」に耽溺する。

二人は結ばれ、共に幸せな人生を送るはずだった。しかし夜が明けると、男は死んでおり（なんて勝手な奴！！）、残された女はひと時の劣情に身を任せたことを非難されながら永い余生を過ごすことになった。

曲の最後では、女の人生の黄昏が描かれる。苛烈な生涯を経験しつつ、女は一夜の悦楽を決して悔いることない。しかし、迫りくる死の中に安らぎを見出す女の独白は、聴く者の胸を締

め付けずにはおかないだろう。

それはあたかもピエトロ・マスカーニ（1863-1945）のオペラ『カヴァレリア・ルスティカーナ』を別の視点から描きなおし、さらに後日談まで加えたかのようなのである。聴き比べて頂くと、未婚のまま関係を持った恋人に先立たれ、因習的な社会で非難されながら生きる女という構図が酷似していることがお解り頂けることだろう。『黄昏』は僅か15分ほどで、小編成の楽曲だが、そこには一編のオペラのような世界が凝縮されているのである。

レスピーギは「音の画家」と呼ばれるように、多彩な音色で風景や絵画を音楽化することを得意とした。この曲も、その名に恥じない名作である。ぜひ情景を思い浮かべながらお楽しみ頂きたい。

『三つのロマンチックな愛の歌』 *Drei Romantische Liebesgesänge*

Du meine Seele
Friedrich Rückert(1788-1866)

*Du meine Seele, du mein Herz,
Du meine Wonn', o du mein Schmerz,
Du meine Welt, in der ich lebe,
O du mein Grab, in das hinab
Ich ewig meinen Kummer gab!*

*Du bist die Ruh', du bist der Frieden,
Du bist vom Himmel mir beschieden.
Daß du mich liebst, macht mich mir wert,
Dein Blick hat mich vor mir verklärt,*

*Du hebst mich liebend über mich,
Mein guter Geist, mein bess'res Ich!
Du meine Wonn', o du mein Schmerz,
Du meine Welt, in der ich lebe,
Du meine Seele.*

君は我が魂
F. リュッケルト

君は我が魂、我が心
我が喜び、我が苦しみ
君は私の生きる世界
我が墓、そこに
私は悩みを永遠に葬った

君は靦い、君は安らぎ
君は天から私につかわされた人
君の愛によって、自分の価値を知り
君のまなざしが、私を光で満たす

君は愛によって私を高める
より良き精神、より良き私
我が喜び、我が苦しみ
君は私の生きる世界
君は我が魂

Suleika

Johann Wolfgang von Goethe(1749-1832)
Marianne von Willemer(1784-1860)

Ach, um deine feuchten Schwingen,
West, wie sehr ich dich beneide:
Denn du kannst ihm Kunde bringen
Was ich in der Trennung leide!

Die Bewegung deiner Flügel
Weckt im Busen stilles Sehnen;
Blumen, Auen, Wald und Hügel
Stehn bei deinem Hauch in Tränen.

Doch dein mildes sanftes Wehen
Kühlt die wunden Augenlider;
Ach, für Leid müßt' ich vergehen,
Hofft' ich nicht zu sehn ihn wieder.

Eile denn zu meinem Herzen;
Doch vermeid' ihn zu betrüben
Und verbirg ihm meine Schmerzen.

Sag ihm, aber sag's bescheiden:
Seine Liebe sei mein Leben,
Freudiges Gefühl von beiden
Wird mir seine Nähe geben.

Nun hast du mir

Adelbert von Chamisso(1781-1838)

Nun hast du mir den ersten Schmerz getan,
Der aber traf.
Du schläfst du harter, unbarmherz'ger Mann,
Den Todesschlaf.

Es blicket die Verlassne vor sich hin,
Die Welt ist leer.
Geliebet hab ich und gelebt, ich bin
Nicht lebend mehr.

Ich zieh mich in mein Innres still zurück,
Der Schleier fällt,
Da hab ich dich und mein verlornes Glück,
Du meine Welt!

ズライカ

J. W. ゲーテ
M. ヴィレマー

ああ、あなたの瑞々しい翼
西風よ、私は羨ましい
あなたなら彼に便りを運べる
私が遠く離れて苦しんでいると

あなたの羽ばたきは
胸の中に静かな憧れを呼び覚ます
花も、野も、森も、丘も
あなたの息吹に触れて涙に濡れる

しかし、あなたの穏やかなそよぎは
私の痛むまぶたを癒してくれる
ああ、私は苦しみで死にそう
再びあの人に会うことが望めないなら

さあ私の愛する人のところへ急いで
でも、あの人を悲しませないように
わたしの痛みのことは黙っていて

彼に伝えておくれ、でも控えめに
彼の愛こそ私の命なのだ
そして、互いの喜ばしい気持ちがあれば
私は彼を間近に感じられるのだと

今あなたは

A. シャミツソー

今あなたは初めて痛みをもたらした
私を貫く痛みを
無情な男、あなたは、硬くなって
死の眠りにについている

私は取り残され、虚ろな世界を
じっと見つめる
私は愛し、生きてきた
私はもう生きてはいけない

私は心の中に静かに引きこもり
幕を下ろす
そこにはあなたがいて、失った幸せがある
あなたこそ私の世界

『黄昏』
Il Tramonto

Percy Bysshe Shelley (1792–1822)
Roberto Ascoli

作 P. B. シェリー
伊訳 R. アスコリ

Già v'ebbe un uomo,
nel cui tenue spirto
(qual luce e vento in delicata nube
che ardente ciel di mezzo-giorno stempri)
la morte e il genio contendeano.

かつて、ひとりの若者がいた
その繊細な心の中では
真昼の燃えるような青空に消えていく
淡い雲の中の光と風のように
死と才能がせめぎ合っていた

Oh! quanta tenera gioia,
che gli fè il respiro venir meno
(così dell'aura estiva l'ansia talvolta)
quando la sua dama, che allor solo conobbe l'abbandono
pieno e il concorde palpitar di due creature che s'amano,

夏の大気の恍惚感にも似た
息がつまるほどの甘美な悦び
そして初めて知る
愛しあい、ひとつになった
男女の前に広がる無限の世界

egli addusse pei sentieri d'un campo,
ad oriente da una foresta biancheggiante ombrato
ed a ponente scoperto al cielo!

若者は小径を歩いた
東には凍てついた暗い森
しかし、西には空が開けている

Ora è sommerso il sole; ma linee d'oro
pendon sopra le cineree nubi,
sul verde piano sui tremanti fiori
sui grigi globi dell'antico smirnio,
e i neri boschi avvolgono,
del vespro mescolandosi alle ombre.

陽はすでに沈んだが
灰色の雲間から金色の陽光がもれ
遙かな草原に、そよぐ花々に
たんぽぽの白い綿毛に
そして、褐色の巨大な森に舞い降りる
實の影と混ざりあいながら

Lenta sorge ad oriente
l'infocata luna tra i folti rami
delle piante cupe:
brillan sul capo languide le stelle.

鬱蒼とした木々の黒い幹の間から
大きな、燃えるような月がゆっくり昇り
頭上には
かすかに輝く星々が集まってきた

E il giovine sussura: "Non è strano?
Io mai non vidi il sorgere del sole,
o Isabella. Domani
a contemplarlo verremo insieme."

若者は言った「僕って変だろう
日の出を見たことが無いなんてさ
イザベラ、明日はここで
一緒に太陽を見ようじゃないか」

Il giovin e la dama giacquer tra il sonno e il dolce amor
congiunti ne la notte:
al mattin
gelido e morto ella trovò l'amante.
Oh! nessun creda che, vibrando tal colpo,
fu il Signore misericorde.

その夜、ふたりは愛し合い
眠りについた
だが、翌朝、彼女が目にしたのは
冷たくなって死んでいる恋人だった
誰が信じるだろう、このような仕打ちを
慈悲深い神がなさるなどと

*Non morì la dama, né folle diventò:
anno per anno visse ancora.
Ma io penso che la queta sua pazienza,
e i trepidi sorrisi,
e il non morir... ma vivere a custodia del vecchio padre
(se è follia dal mondo dissimigliare)
fossero follia.*

死ぬことも、狂気に陥ることもなく
彼女は歳を重ねた
穏やかな忍耐
哀しげな笑みを湛え
老いた父の世話に生きたこと
世の常ならぬことを狂気というならば
これぞ狂気である

*Era, null'altro che a vederla,
come leggere un canto da ingegnoso bardo
intessuto a piegar gelidi cuori in un dolor pensoso.*

しかし、彼女の姿は
才気にあふれた吟遊詩人の物語のように
冷酷な心をも解きほぐし、哀れを誘う

*Neri gli occhi ma non fulgidi più;
consunte quasi le ciglia dalle lagrime;
le labbra e le gote parevan cose morte tanto eran bianche;
ed esili le mani e per le erranti vene e le giunture rossa
del giorno traspariva la luce.*

黒い瞳は輝きを失い
まつげは涙で擦り切れ
唇と頬は死人のように蒼白い
その手は痩せ、血管や関節が
陽の光に透けて見えるほどだ

*La nuda tomba, che il tuo fratel racchiude,
cui notte e giorno un'ombra tormentata abita,
è quanto di te resta, o cara creatura perduta!*

粗末な墓
そこには夜も昼も亡霊がさまよい出る
それだけが汝に残された、迷える者よ

*'Ho tal retaggio, che la terra non dà:
calma e silenzio,
senza peccato e senza passione.*

「私に残されたのは無上のもの
穏やかさと静けさ
それは罪でも、熱情でもない

*Sia che i morti ritrovino (non mai il sonno!)
ma il riposo,
imperturbati quali appaion,
o vivano, o d'amore nel mar profondo scendano;*

死が私に、ひとときの休息ではなく
永遠の安息をもたらしますように
そこでは、もう苦しむことはありません
生きようとも、愛の海深く沈もうとも

*oh! che il mio epitaffio,
che il tuo sia:
Pace!"*

そうして私の墓にはあなたと同じ
文字が刻まれることでしょう
『やすらかに眠る』と

Questo dalle sue labbra l'unico lamento.

これが彼女の最期の呻きだった

メシドール・アンサンブル

「メシドール」とはフランス革命暦にある月の名前の一つで、現在の6月19日から7月18日に相当。初回の演奏会がこの時期だったことが団体名の由来になっている。演奏会のたびに‘いつか演奏したいと思っていた曲’を携えた有志が集う緩やかな集団を標榜している。楽器編成・メンバーは毎回変わるため、これまでの出演者は社会人・学生・主婦・職業音楽家まで53名にのぼる。

これまでの演奏会

第1回（2002年7月13日 於：新宿文化センター 小ホール）

メンデルスゾーン：ピアノ三重奏曲 第1番 二短調 Op. 49（フルート版）

ブラームス：クラリネット五重奏曲 口短調 Op. 115

第2回（2003年7月6日 於：幕張ベイタウンコア 音楽ホール）

ハイドン：弦楽四重奏曲 二短調「五度」Op. 76-2

ビゼー／シンプソン：フルート・チェロ・ピアノのためのカルメン幻想曲

ドヴォルジャーク：弦楽四重奏曲 へ長調「アメリカ」Op. 96

第3回（2004年2月15日 於：新宿文化センター 小ホール）

モーツァルト：フルート四重奏曲 第1番 二長調 K. 285／オーボエ四重奏曲 へ長調 K. 370

アダージョとロンド 八短調 K. 617／ピアノ四重奏曲 第1番 卜短調 K. 478

第4回（2004年11月20日 於：ティアラこうとう 小ホール）

メンデルスゾーン：弦楽四重奏曲 第1番 変木長調 Op. 12

キュフナー（伝ウェーバー）：クラリネット五重奏のための 序奏、主題と変奏

シューベルト：ピアノ五重奏曲 イ長調「罅」Op. 114

第5回（2005年7月10日 於：ティアラこうとう 小ホール）

ヴォルフ：イタリアのセレナーデ ト長調

モーツァルト／ヴェント：フルート四重奏のためのオペラ『魔笛』より抜粋

チャイコフスキー：弦楽四重奏曲 第1番 二長調 Op. 11

第6回（2006年4月30日 於：ティアラこうとう 小ホール）

モーツァルト／ロットラー：弦楽五重奏曲 第2番 K. 406 八短調（木管五重奏版）

ベートーヴェン：七重奏曲 変木長調 Op. 20

第7回（2007年5月13日 於：ティアラこうとう 小ホール）

ベートーヴェン：アダージョとロンド（六重奏曲 変木長調 Op. 81b より）

ボロディン：弦楽四重奏曲 第2番 二長調

モーツァルト：ディヴェルティメント 第17番 二長調 K. 334

第8回（2008年6月29日 於：ティアラこうとう 小ホール）

バッハ：管弦楽組曲 第2番 口短調 BWV1067

シューベルト：八重奏曲 へ長調 D. 803

第9回 (2009年6月21日 於：ティアラこうとう 小ホール)

シェーンベルク：浄夜 Op. 4 (弦楽六重奏版)

ブラームス：弦楽六重奏曲 第1番 変口長調 Op. 18

第10回 (2009年11月22日 於：ティアラこうとう 小ホール)

モーツァルト：フルート四重奏曲 第1番 二長調 K. 285

プーランク：ピアノと管楽器のための六重奏曲

チャイコフスキー：弦楽六重奏曲 二短調 Op. 70 「フィレンツェの思い出」

第11回 (2010年7月3日 於：ティアラこうとう 小ホール)

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第7番<ラズモフスキー第1番> Op. 59-1

ラインベルガー：九重奏曲 変ホ長調 Op. 139

第12回 (2010年12月12日 於：ティアラこうとう 小ホール)

モーツァルト：フルート四重奏曲 第4番 イ長調 K. 298

シューベルト：弦楽四重奏曲 第14番 二短調 D. 810 「死と乙女」

ベートーヴェン：クラリネット三重奏曲 変口長調 Op. 11 「街の歌」

J. シュトラウス2世/シェーンベルク：皇帝円舞曲 Op. 437 (七重奏版)

第13回 (2011年11月13日 於：聖路加国際病院 トイスラー記念ホール)

モーツァルト：クラリネット五重奏曲 イ長調 K. 581

ラヴェル：弦楽四重奏曲 ヘ長調

サン=サーンス：トランペット、ピアノ、弦楽四重奏、コントラバスのための七重奏曲 Op. 65

第14回 (2013年4月21日 於：ティアラこうとう 小ホール)

モーツァルト：フルート四重奏曲 第3番 ハ長調 K. 285b/セレナーデ 第13番 ト長調 K. 525

ブラームス：ピアノ五重奏曲 ヘ短調 Op. 34

第15回 (2014年5月25日 於：ティアラこうとう 小ホール)

R. シュトラウス：オペラ『カプリッチョ』より前奏曲/メタモルフォーゼン (弦楽七重奏版)

ブラームス：弦楽六重奏曲 第2番 ト長調 Op. 36

第1回 子供のための演奏会 (2014年8月3日 於：南府中自治会館)

バッハ：ブランデンブルク協奏曲 第4番 ト長調 BWV1049 より第1楽章 他

第16回 (2015年5月24日 於：ティアラこうとう 小ホール)

バッハ：『音楽の捧げ物』BWV1079 よりトリオンナタ/『ゴルトベルク変奏曲』BWV988 (弦楽版)

第2回 子供のための演奏会 (2015年6月6日 於：おき医院<府中市白糸台>)

三浦恵理子：アリア～バッハの無伴奏チェロ組曲第1番を伴奏にして 他

第17回 (2016年5月22日 於：ティアラこうとう 小ホール)

ハイドン：フルート三重奏曲「ロンドン」ハ長調 Hob. IV-1

モーツァルト：フルート四重奏曲 ト長調 KV. 285a

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲 第4番 ハ短調 Op. 18-4

ブラームス：クラリネット五重奏曲 口短調 Op. 115

第3回 子供のための演奏会 (2016年9月18日 於：府中の森芸術劇場 ウィーンホール)

サン=サーンス：『動物の謝肉祭』～動物学的大幻想曲～

出演者の横顔

ソプラノ：藤井玲南

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。卒業時に同声会賞受賞。東京藝術大学大学院在学中、ドイツのエアフルト歌劇場の総支配人から招待を受け、研修生として所属する。同劇場ではフンパーディング『ヘンゼルとグレーテル』“砂の精・露の精”役でオペラデビュー、リーダーアーベントを開催。翌年にはライプツィヒ歌劇場にて研修生として研鑽を積む。その後ウィーン国立音楽大学リート・オラトリオ科卒業。

在欧中にモーツァルト『魔笛』“夜の女王”（スロヴァキア国立コシツェ歌劇場）、ロッシーニ『セヴィリアの理髪師』“ロジーナ”（グダンスク・バルティック歌劇場、ウォムジャ音楽祭）、ヴェルディ『リゴレット』“ジルダ”（ウォムジャ音楽祭）を演じる。

Mikuláš Schneider-Trnavský 国際声楽コンクール第1位。*Antonín Dvořák* 国際声楽コンクールオペラ部門第1位、歌曲部門第3位。*Ada Sari* 国際声楽コンクール第3位、特別賞三部門受賞。*Hans Gabor Belvedere* 国際声楽コンクール *Olga Warla-Kolo* 賞受賞。第23回友愛ドイツ歌曲コンクール第1位ならびに *R* シュトラウス賞受賞。第18回日仏声楽コンクール第1位、第83回日本音楽コンクール第2位および岩谷賞（聴衆賞）受賞、第7回静岡国際オペラコンクール入選。コンサートでは室内オーケストラ カペッラ・イストロポリターナ、ポーランド国立放送交響楽団、テアトロ・ジリオ・シヨウワ・オーケストラなどと共演。ドイツ語、フランス語、チェコ語の歌をレパートリーとする。

これまでに桜井真知子、直野資、森晶彦、*Eva Blahová*、*Regina Werner-Dietrich*、*Walter Moore*、*Susan Manoff*、*Isabel Garcisanz* 各氏に師事。二期会会員。国立音楽大学非常勤講師。

ヴァイオリン：宇野 格

4歳よりヴァイオリンを始め、学生時代は早稲田大学交響楽団のコンサートマスターとして、その美音でサントリーホールを満たした。聴いた曲は即座にヴァイオリンで演奏できるという特殊能力を活かし、年々十回の本番をこなす。

ヴァイオリン：樫本亜希子

幼少時よりヴァイオリンを始める。学生時代、お茶の水管弦楽団にて第2ヴァイオリン首席奏者、コンサートマスターを歴任。卒業後はお茶の水OBオーケストラ、グローバル・フィルハーモニック・オーケストラにて活躍。

ヴィオラ：林 俊夫

5歳よりヴァイオリンを始め、大阪大学交響楽団、大阪モーツァルトアンサンブル、東京ムジックフロー、アンサンブル70sなどでコンサートマスターを歴任。ヴァイオリンを田中直子氏（元オルフェウス室内管弦楽団コンサートマスター）に、ヴィオラを林徹也氏（元シュトゥットガルト室内楽団首席奏者）に師事。

チェロ：坂本 謙太郎

菅野博文氏、F.バルトロメイ氏他に師事。先ごろ師の著書『バルトロメイ家とウィーン・フィルの120年』を監訳・出版。経営コンサルタントとして多忙を極めているにもかかわらず（今日もこの後シンガポールへ）、余暇活動が派手なため「仕事してんの？」と訝しがられている。

コントラバス：島田 奈央

コントラバスに出会って20年余。巨大な楽器に抱えられ街を歩いていると、道行く人に「頑張ってる！」と肩を叩かれ、ついには握手を求められる。このような地道な営業活動は、今日いかなる形で実を結ぶのか…？

当ページの右半分は若干の誇張と多分なユーモアを含んでいます。